

## テンブリドSC 薬害試験

テンブリドSCは不快害虫用殺虫剤であり、様々な場所に使用されることが想定されます。対象とする害虫は多岐にわたり、その棲息場所には植物が生育している場所になることもしばしばあります。この場合、食用に供する植物には散布を控えるか、または散布してしまった場合は食に供することはできません(食用の作物には登録農薬を使用してください)。

また、食に供さない鑑賞植物の場合にも植物保護の目的で散布することはできません。しかしながら、害虫防除の際に意図せず植物に薬剤がかかってしまう場合があります。以下は、いくつかの植物に対して、テンブリドSCの薬害試験を行った結果です。

### 1 試験

テンブリドSCを、所定の希釈倍数や、より濃い濃度(ラベル外の倍率100倍)で植物体に散布し、一定期間後、対象植物の目視観察を行いました。

### 2 結果

#### 試験1

散布日 : 2016年7月2日      散布量 : 100倍希釈液、50 mL/m<sup>2</sup>  
 散布場所 : 千葉県茂原市      降雨 : 散布後、降雨無し

植物名(生育期)	散布1日後	3日後	4日後	14日後
サクラ	—	—	—	—
サザンカ	—	—	—	—
ジンチョウゲ	—	—	—	—
アジサイ	—	—	—	—
コウライシバ	—	—	—	—

薬害の程度(—:無、±:微、+:少、++:許容外、+++:甚大)

散布後2週間程度薬剤による影響、薬害症状について観察したが、いずれも無処理区と変わりなく、問題は認められなかった。

#### 試験2

散布場所 : 千葉県印西市      散布量 : 100倍希釈液、50 mL/m<sup>2</sup>  
 散布日 : 2016年8月6日      降雨 : 処理後の降雨無し

植物名(生育期)	1日後	2日後	7日後
ニオイヒバ	—	—	—
ソヨゴ	—	—	—
コウライシバ	—	—	—

薬害の程度(—:無、±:微、+:少、++:許容外、+++:甚大)

散布後約1週間経過時に観察したが、異常は認められなかった。

## テンプリドSC 薬害試験

### 試験3

散布日 : 2016年8月24日      散布量 : 200倍希釈液、50 mL/m<sup>2</sup>  
 散布場所 : 栃木県小山市      降雨 : 処理後の降雨無し

植物名(夏芽展開中)	散布1日後	3日後	5日後	7日後	14日後
なつつばき	—	—	—	—	—
もっこく	—	—	—	—	—
かくれみの	—	—	—	—	—
きんもくせい	—	—	—	—	—
べにかなめもち	—	—	—	—	—
つつじ	—	—	—	—	—
さつき	—	—	—	—	—
あじさい	—	—	—	—	—
龍のひげ	—	—	—	—	—
バラ	—	—	—	—	—
クリスマスローズ	—	—	—	—	—
アップルミント	—	—	—	—	—
セージ	—	—	—	—	—

薬害の程度(—:無、±:微、+:少、++:許容外、+++ :甚大)

散布後2週間程度薬剤による影響、薬害症状について観察したが、いずれも無処理区と変わりなく、問題は認められなかった。

### 試験4

散布日 : 2016年7月8日      散布量 : 200倍希釈液、50 mL/m<sup>2</sup>  
 散布場所 : 茨城県結城市      降雨 : 散布後、降雨無し

植物名(生育期、ミニバラ、草花は開花期)	散布3日後	7日後	14日後
ミニバラ	—	—	—
ペチュニア	—	—	—
ベゴニア	+	±	±
ニチニチソウ	±	±	±
コウライシバ	—	—	—

薬害の程度(—:無、±:微、+:少、++:許容外、+++ :甚大)

テンプリドSCの200倍希釈液を100mL/m<sup>2</sup>を散布した結果、ミニバラ、ペチュニア、コウライシバへの薬害は認められなかった。ベゴニアには軽微な斑点状の薬斑がみられたが14日後には目立たなくなった。ニチニチソウは葉の先端部を中心にごく軽度の黄変が認められたが、問題ない程度であった。

## 3 考察

供試した樹木と日本芝に対しては、薬害の兆候が見られなかった。しかしながら—部の草花では、程度は軽いものの薬害が認められたので、使用の際にはむやみに植物に薬液がかからないように注意が必要である。